

経済学・経営学の内容

北條 勇作

はじめに

私は経済地理学、経済立地論を専攻としており、具体的には、シュムペーター (Joseph Alois Schumpeter) の経済発展の理論 (特に革新の理論) などをレッシェ (August Lösch) の立地の一般均衡理論 (空間における一般均衡の理論) さらに彼の経済地域の理論 (中心地理論を含む) の中へ導入すること (これと逆の方向を考慮してもよい) を最も重要な研究課題としている。—その際、クリスタル (Walter Christaller) の中心地学説も大いに利用する。前者はワルラス (Marie Esprit Léon Walras) の一般均衡理論、より正確にはシュムペーターの循環の流れの理論 (静学) を動学化したものであり (空間の概念が入っていないところに欠点が存在する)、後者のはじめのものは一般均衡理論に空間の概念を導入 (逆のことも言える) したものである

(時間の概念が入っていない、すなわち動学化されていないところに欠点が存在する)。両者すなわちシュムペーター理論とレッシェ理論を体系的に総合することによって、空間の概念の入った静態理論を動学化することが可能になる。換言すれば、空間 (立地) の静態理論—立地の一般均衡—を空間 (立地) の動態理論へ高めることが出来るのである。

ここで私は、皆さんのこれからの学習・研究のための拠り所の一端ともなればと思ひ、経済学とは何か、経営学とは何か、についてそれぞれの分化 (細分化し詳説したいが紙幅の関係で簡単なものになる) も含めて論述して、両学問の興味・内容などに関して説明する。

経済学とは何か

スミス (A. Smith) によって体系づけられた経済学は、その成立以来著しい発

展をとげ、きわめて精緻な理論を沢山所有するに至った。価格理論、所得理論、成長理論、分配理論、景気循環 (理) 論などはその代表的なものである。

経済学 (economics) とは、人間の経済活動・行動、またそれらによって発生するところの経済現象を研究対象とするものであり、財 (財貨と用役) サービス (から成る) の生産・分配・交換・消費などについて研究し、そこに存在する法則性 (経済理論) を導出する、また得られた理論の応用を自論む学問である。

経済学は、近代経済学とマルクス経済学の二大支柱に大きく分類できる。また近代経済学は、ミクロ経済学 (価格分析) とマクロ経済学 (所得分析) の両分野が存在する。

高崎経済大学経済学部経済学科の専門教育科目 ('02学年次) は、群の区分で眺めると (全部で8群から成る)、1、経済理論、2、経済史・経済思想、3、経

済政策・経済事情、4、財政・金融、5、経済数学・統計学、6、社会政策と法律、7、(外書講読、特別講義)、8、演習の通りである。

経営学とは何か

当該節のような内容の論述において通常想起されなければならない学問は、よく論じられているように経営学、会計学、商学、経営情報学などである。

経営学 (business administration, business management) とは、経営―資本家、経営者、労働者などが同一の経営体を形成し、その組織が機能している中で、経営は組織体として、また機能面として眺めることが出来る。なお伝統的理論では、通常、意思決定を遂行する行動主体を資本家あるいはその代行者である経営者に単純に限定化するが、最近の新しい理論においては、経営体を構成する総てのものを行動決定主体と見なし、各主体の意思決定の相互依存作用(関係)による経営システムを考察する―の構成と行動の諸原理を把握・研究する学問であり、その論究の方法論的特徴はもちろん実践理論(この考え方はよく言われるように、論理的には理論と政策を一体としたものである)にあると言えよう。

当該学問は、具体的には、生産、販売、管理、人事、労務、財務などを取り扱う

ため、企業(理)論、経営生産論、経営販売論、経営管理論、経営労務論、経営財務論などに分かれる。ちなみに、意思決定の面から言えば周知のように、管理は部分的視点からのものであり、経営は全社的観点からのものである。

本学部の経営学科の専門教育科目(02学年次)は、群の区分で眺めると、1、経営学の基礎と歴史、2、国際化と経営戦略、3、経営行動とマネジメント、4、マーケティングと流通、5、コンピュータと情報、6、企業と会計、7、経営と法、8、演習の通りであり、全部で8群から構成されている。

おわりに

これまで私は、紙面の制約の都合で詳説は出来なかったが、経済学とは何か、経営学とは何か、についていくらか論じてきたので、両学問の中味や内容などがどのようなものであるかある程度は理解してくれたのではないかと思う。皆さんのこれからの学習・研究の拠り所の一環として欲しい。勉学に励み、感動を覚えながら両学問の様々な分野の妙味を心ゆくまで味わったものは、将来に亘って色々な意味において大変な糧になるのである。



北條 勇作 (ほうじょう ゆうさく)

経済学部教授。

1947年生まれ。高崎経済大学経済学部卒業、早稲田大学大学院経済学研究科理論経済学・経済史専攻修士課程修了、青山学院大学大学院経済学研究科経済政策専攻博士課程単位取得。高崎経済大学講師・助教授を経て現在同大学教授。著書に、『シムペーター経済学の研究』、『経済地理学』、『経済学の一方向』などがあり、また論文その他多数存在する。